

今から40年前 私が研修医だった頃の感染症の治療は、安静と対症療法しかありませんでした。自身がインフルエンザにかかった時も、解熱剤を飲みながらマスクをして診療を行い、患者さんに安静を指示していました(笑)。今でもほとんどの感染症には安静と対症療法しかありませんが、開業医にとって大きく変わったことは、予防接種の種類が増えたこととインフルエンザの診断と治療です。26年前に開業した頃は年に1~2例くらいは麻疹やヒブ髄膜炎の患者さんがいらっしやいましたし、急速に脱水症に陥るロタウイルス胃腸炎には何度も肝を冷やしました。そのような重症感染症をほとんど見なくなったのは予防接種のお蔭です。インフルエンザに至っては正確な診断が付き、抗インフルエンザ薬によって軽症化できるようになりました。また各種迅速診断検査も充実し、不安に思いながら経過を見ることも少なくなりました。しかしながら、コロナの出現によって、あらためて人類と感染症との戦いは永遠に続くものだと思知らされました。

### 【最近目立つ病気】

インフルエンザの流行はまだみられていません。過去2シーズンはインフルエンザの流行は起こらず、新型コロナウイルス感染症対策に集中できました。今年にはインフルとコロナの同時流行が起こるのではないかと言われています。同時流行が予想される大きな理由は行動制限がなされなくなったことでしょう。しかし、マスクと手指消毒を励行することで大きな流行は抑えられるのではないかと個人的には思っています。

最近特に目立つ病気は、RSウイルス感染症とヒトメタニューモウイルス感染症です。乳幼児で長引く発熱と咳や喘鳴が強くなる場合はこの2つのウイルス感染症が疑われます。迅速抗原検査キットで診断可能ですが全国的に流行しているために検査キットが品不足になっています。診断がついても対症療法しかないので、約1週間近くはお休みが必要です。次に手足口病が目立ちます。高熱が2日ほど続くことが多いです。無熱のこともあります。近年の手足口病の特徴は発熱時に発疹が見られず、1~2日して発疹が出ます。発疹も手足口だけでなく、臀部や躯幹、大腿部や上腕部に見られることもあります。涼しくなってきた、ウイルス性胃腸炎も増加傾向です。発熱しやすい感染症に対してはコロナ対応となりますので、隔離室で防護衣を装着して診ることになります。診察には時間がかかります。今年のインフルエンザシーズンがどんな状況になるか、とても心配なところではあります。

### 【オミクロン株対応ワクチン】

下記は厚生労働省のホームページ、新型コロナワクチン Q & A からの抜粋です。

『BA.1、BA.4-5は、いずれもオミクロン株の種類(亜系統)です。抗原性(免疫反応を引き起こす性質)について、オミクロン株と従来株との間の差に比べ、BA.1とBA.4-5との間の差は大きくないことが示唆されています。オミクロン株対応2価ワクチンは、BA.1対応型であっても、BA.4-5対応型であっても、オミクロン株の成分を含んでいるため、現在流行の中心であるオミクロン株に

し、従来の1価ワクチンを上回る効果が期待されています。また、従来株とオミクロン株の2種類の成分があることにより、誘導される免疫も、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられるため、今後の変異株に対しても有効である可能性がより高いことが期待されています。このため、対応するオミクロン株の種類にかかわらず、その時点で接種可能なオミクロン株対応2価ワクチンの接種が勧められます。』



『オミクロン株対応ワクチンは、1・2回目の接種を終えた12歳以上のすべての方(※)が接種可能であり、これまでに接種した新型コロナワクチンの種類にかかわらず、1回に限り接種できます。また、11歳以下の方や新型コロナワクチンの接種回数が2回より少ない方は、オミクロン株対応ワクチンの接種対象ではありません。従来のワクチンで1・2回目接種を行った後に、オミクロン株対応ワクチンによる追加接種が行われます。(※)オミクロン株対応ワクチンについて、ファイザー社のワクチンは12歳以上、モデルナ社のワクチンは18歳以上の方が接種対象となっています。』—当院はファイザー社のみ取り扱いです。

『オミクロン株対応ワクチンは、従来の新型コロナワクチンと同様に、インフルエンザワクチンとの同時接種が可能です。インフルエンザワクチン以外のワクチンは、オミクロン株対応ワクチンと同時に接種できません。互いに、片方のワクチンを受けてから2週間以上あけて接種してください。』

『ファイザー社のオミクロン株対応2価ワクチン(従来株/オミクロン株BA.1)については、主な副反応として、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等がありますが、ほとんどが軽度又は中等度で回復性が認められること、本ワクチンの追加接種に係る安全性プロファイルは、従来の1価ワクチ

ンによる追加接種とおおむね同様であり、現時点で重大な懸念は認められないことが、薬事承認審査で確認されています。

モデルナ社のオミクロン株対応2価ワクチン(従来株/オミクロン株BA.1)については、主な副反応として、注射した部分の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等がありますが、ほとんどが軽度又は中等度で回復性が認められること、本ワクチンの追加接種に係る安全性プロファイルは、従来の1価ワクチンによる追加接種と比較して明確な差異はなく、現時点で重大な懸念は認められないことが、薬事承認審査で確認されています。』

『小児の接種について、オミクロン株流行下での一定の科学的知見が得られたことから、小児についても努力義務の規定を適用することが妥当であるとされました。ただし、接種は強制ではなく、ご本人や保護者の判断に基づいて受けていただくことに変更はありません。』

## おしらせ



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター(Tel:222-0099)では午後7時30分から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は10/28・12/30の予定です。なお12/18は当番医です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp(<https://kabata-cl.jp>)から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので是非ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

